

令和5年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技 大会展望

文： 中島 洋己

((一社)静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭)

令和5年度第37回東海高校新人大会バスケットボール競技静岡県予選が令和6年1月20日に静岡学園高校他で開幕する。アフターコロナにおける最初の新人大会、まさしく4年ぶりにすべての制限が撤廃された完全開催となる。初日に1・2回戦、2日目にブロック決勝と決勝リーグ初戦および5位決定トーナメント、3日目に舞台を静岡市北部体育館に移して決勝リーグ第2戦と5位決定戦、最終日28日に同じく北部体育館で決勝リーグ最終戦を行い、上位3チームが2月10日・11日に岐阜県・大垣市総合体育館で開催される東海高校新人大会への出場権を獲得する。今年の戦力図を占う最初の大会を制するのはどのチームなのか、また東海新人でコートに立つのはどのチームなのか、今から興味が尽きない。また、この大会から年末のウインターカップ2023に出場して優勝した京都精華学園相手に互角の戦いを演じた浜松開誠館、男子2枠目の全国切符をつかんでウインターの舞台に戻ってきた浜松学院、そして全国4勝を飾って3位を勝ち取った藤枝明誠が満を持して登場する。全国の強豪と繰り広げた熱戦で培った経験をこの大会で思う存分に披露してくれることを期待したい。

新型コロナウイルス感染症が第5類に引き下げられてから半年以上が経過したが、感染者がまだいなくなったわけではなく、同時に季節性インフルエンザも流行していて学級閉鎖や地区予選の出場辞退もあったと聞いている。感染対策ガイドラインや応援への制限もなくなったが、各自で十分な感染症対策をしてもらい、棄権チームを出すことなくこの大会が無事終了ことを願っている。

最終日の28日には、(一社)静岡県バスケットボール協会U-18カテゴリー優秀選手表彰式が4年ぶりに開催される。例年県新人大会最終日恒例の風物詩であったがコロナの影響で3年連続の中止、そんな中、今年4年ぶりに開催されるという吉報に心躍る気持ちである。今年の高校バスケを彩った男女24名のスーパースターが集う最後の機会、県協会への多大な貢献に心から拍手を送るとともに次なるステージでの活躍を祈りたい。

この展望を執筆するにあたって山口裕史県協会広報副委員長を始め、各チーム顧問にもお願いをして出来る限りの取材に応じていただいた。それでも十分な展望は書けてはいないが、この場を借りて協力していただいた先生方に心からお礼申し上げたい。

最後に、新年早々から北陸地方が大規模地震に見舞われ心を碎かれる思い日々が続いている。まずこの場でこの地震によりお亡くなりになられた方々に対し、謹んで哀悼の意を表すとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げ、1日も早い復興を祈る思いである。本大会参加の選手たちも普段と変わらない環境下でバスケットが出来ることを改めて感謝しながらプレーして欲しい。

<大会展望をお読みになる前に>

新型コロナウイルス感染症の影響で、県新人については、令和2年度は規模縮小・3位決定戦行わず・東海新人の出場権付与なしで実施、令和3年度は県総体の出場権のみ付与し中止、東海新人については令和2年度・3年度と2年連続で中止となったため、連続記録や〇年(〇大会)ぶりの出場等の記録等に一部実際と整合性が合わない部分が生じていることを了承して下さい。

【男子】

今大会はウインター県予選でも他チームを圧倒、本戦でも旬準決勝で前年度優勝チーム・開志国際に競り勝って最終的には2年連続の3位に輝いた藤枝明誠の独壇場が予想されるが、浜松学院も第2代表としてウインターに出場してかけがえのない舞台を経験、藤枝明誠を猛追する。しかしながら両チームとも新チームを始動してまだ3週間程度、新たな布陣で試行錯誤を繰り返している最中、その合間を縫って各地区予選上位チームが包囲網となって両チームに挑む展開が予想される。今回もブロック別に展望してみたい。

左上のブロック、第1シードには全国屈指の強豪・藤枝明誠が陣取る。今年度全国総体ベスト8・ウインター全国3位。特にウインターでは鳥羽・埼玉栄・八王子学園八王子・そして開志国際という強豪チームをことごとく破る快進撃を見せて静岡県勢最多勝利に並ぶ全国4勝を勝ち取った。全国の檜舞台から凱旋、東京体育館のメインコートに沸かせたプレーを県内で見られることはうれしい限りである。主力の赤間・齋藤・小澤などは抜けたが、新チームにおける層の厚さも全国トップクラス、今大会も間違いなく優勝争いの大本命である。新チームの柱は日本のバスケットにも慣れてきてますますインサイドのプレーが冴え渡る209cmボヌ・ロードプリンス・チノソ。来日当初からスクリーン・ポストプレー・コート上の駆け引きなどよくバスケットを理解した器用なプレーを見せていたが、ウインターでは本来の持ち味であるインサイドプレーがさらに磨きがかかり、全国無双の強さを見せた。それを証明する記録として、ウインター5試合で驚愕の126リバウンドを記録、大会リバウンド王に輝いただけではなく、平成24年に延岡学園のジェフ・バンバ(現B3八王子)が記録した1大会最多リバウンド記録を11年ぶりに更新した。バンバの記録は不滅の金字塔かと思われていたがロードプリンスがまさに「神領域」のプレーを見せて記録を打ち破った。特に開志国際戦では32リバウンドを記録(歴代4位)、まさに東京体育館の空中権を独占した。一番の強敵は怪我と古傷、昨年9月の練習試合で右肩を脱臼、11月の県武道館シリーズには復帰して以来全国でも全く変わらないプレーを見せているが、脱臼は癖になる傾向もあるので十分注意しながらのプレーを心掛けて欲しい。ともにチームの牽引する野津洸創は1年生ながら県協会 U18優秀選手にも選ばれた逸材である。少年男子国体選手としても静岡県の3位入賞に貢献、ウインターでも全試合スタメン出場してチームに貢献した。伸び続ける身長は公称190cmではあるが、もう少し伸びている感もある。現在はインサイドを任されているがアウトサイドや中盤でのプレー歴が長いのでどこでもこなせる万能選手、シュートレンジの広さで3Pも放つため、他チームは対策に苦慮すること間違いなし。他にも、ウインターは出場できなかったがトップリーグや国体では大活躍・チーム事情によっては司令塔または3番ポジションどこでも無難にこなせる分、新チームではどこのポジションを任されて本分を全うするのが楽しみな檜垣奏太、ウインター4試合に出場して合計40分で20得点・186cmの長身でリバウンドに絡みながらもリズムよくディフェンスする柴田陽、3Pシュートが冴える福間聖也、鳥羽戦途中出場して放ったシュート4本がすべて成功してラッキーボーイになった高松悠季、鹿児島国体では優勝した茨城県との準決勝で得意のドリブルで相手守備を幻惑して3P3本を含むチーム最多の20得点を挙げた金子來樹など新チームも有望株が多く、目標の全国制覇に向けてまた一歩前進した。厳しく間合いを詰めるディフェンスでボールを奪い、素早く果敢にゴールに向かう堅守速攻のバスケットでまずは新人大会で県そして東海の連覇を果たしたい。

ブロック決勝では、昨年の県新人・県総体ともに7位・ウインター県予選ベスト8、公立高校トップレベルの厚さを誇る選手層のフル活用しタイムシェアしながらコートに立ち最高のパフォーマンスを発揮すべく増田健大・山田凌台・鈴木遥大・尾藤遙陽などが攻守に躍動する浜松西と前回は東部9位で出場して中部2位・静岡学園を倒すアップセットを起こし、今回の東部新人3位決定戦では三島北との「公立

の雄対決」をベンチと一体になった気迫あふれる一丸バスケットで制し3位で今大会出場、まさに1年で6つも地区順位を上げて出場する・**葦山**の勝者が藤枝明誠と対戦することになるだろう。葦山はオールラウンドなプレーで1年次からチームに貢献する**萩原諒**、ゴール下の防波堤・**岡本心真**、そしてキャプテンの**服部通尚**を中心としたディフェンシブなチーム、2回戦注目のカードとなる。

個人的には東部5位・**富士宮東**に注目したい。チームは予選リーグで松崎に敗れ2位となり決勝トーナメントは苦しい組み合わせとなったが、誠恵・星陵・加藤学園・三島南を次々撃破し東部5位で3年ぶりの県新人出場となった。予選リーグ3勝・決勝T4勝、地区予選計7勝は全地区予選を通じての最多勝利である。エースの**栗橋大寿**は県総体の時はパワフルさの反面、スピードに追い付いていない感があったがトレーニングと食餌制限等で劇的な肉体改造を施し、力強さを残しながら見事スピードを身に付けてプレーヤーとしてのレベルが数段上がった感がある。初戦の西部5位・浜松湖南はフィジカルとスピードにあふれリバウンドからの速攻が武器、ドライブも多用し粘り強いバスケットを展開するチーム、その戦いを制し、藤枝明誠への挑戦権をつかみたい。

その他の注目選手として、**清水風多**・**清水明日夢**・**塚本大輝**・**増田好汰**・**近藤翔太**・**竹内澄海**・**バビアンリアンエマヌエル**(島田工業)、**佐藤橙亜**・**河野結翔**・**山本悠人**・**雪山慶人**・**渡邊空聖**(常葉大菊川)、**宮木琉衣**・**中井香維**・**永渕陸斗**・**飯田和真**・**池田蓮**(浜松湖南)、**百瀬暁**・**長島翔太**・**若原創太**・**小川春陽**・**増田脩人**(静岡)、**石川凜**・**森川拓登**・**刈谷蓮**・**佐野琉生**(富士宮東)、**深澤昂士郎**・**佐藤優生**・**細木建命**・**山田慎二**(葦山)、**西野友斗**・**高柿翔**・**間宮怜央**(浜松西)などを挙げたい。

左下のブロックは、今回男女合わせて唯一の地区王者同士がブロック決勝で直接対決する可能性が高い熾烈なブロック、西部王者・浜松開誠館と東部王者・沼津中央の「地区の横綱同士」が決勝リーグ進出をかけて雌雄を決する、ブロック決勝屈指の好カードとなる。

浜松開誠館は全国出場を狙ったウインター県予選では事実上の全国決定戦となった浜松学院戦で競り負け最終的には4位、言葉にならないほどの悔しい思いをした。その雪辱を期すべく万難を排して背水の陣で今大会に臨む。新チームの中心となるのはU18県協会優秀選手に選ばれて今年度の高校バスケの顔ともなった**工藤寧朗**と**高森カイル**。190cm工藤の高さはチームの宝、リバウンドやポストプレーでチームに貢献する。私もウインター県予選で間近で彼のプレーを見てきたが、時折人柄の優しさが垣間見えてしまうこともあった。勝負は勝負、情けを捨ててがむしゃらにボールを奪って得点に結びつけることだけを考えてプレーすれば全国でも通じるプレーヤーになるポテンシャルを持ち、彼の活躍が勝敗を分けるであろう押しも押されぬ中心選手である。東海国体・鹿児島国体でも活躍した1年生・高森の真骨頂は力強い1on1、これだけのスキルは一朝一夕に身に付くものではない。ドリブルミートしてのジャンプシュートは絶品、まさに「新人戦」という大会名に似つかわしい注目の選手である。他にも、ウインター県予選全試合スタメン出場・ボール運びが上手くドライブやパス、3P など多彩な攻撃の引き出しを持つ**藤原終**、リバウンドに汗をかきジャンプシュートを得意とする**小野田祐之**、スピードあふれるボールキャリアでウインター県予選の飛龍戦で3P も決めた**永井哩玖**、ウインター県予選で県武道館のコートにも立った**吉田滯央**、国体予備登録選手にも選出された**渡邊来偉**、トリッキーなパスやドリブルを見せる**嘉数隆成**などフレッシュかつ多彩な戦力でまずはブロック決勝を突破し、東海新人出場、そして初優勝を狙う

沼津中央は東部新人決勝で近年相性が良くなかった飛龍を7点差で破り、宿敵に悲願の勝利を飾った。昨年・一昨年から下級生主体で試合をこなし、その下級生が最上級生となりキャリアを積んで今大

会に臨む。大黒柱は188cmの長身を生かして高いシュート精度で内外から得点を稼ぐ点取り屋・**桐生武蔵**。シューター・**小林吏駒**は高確率の長距離砲とタイミングをずらしてのドライブが生命線。主将・**内藤海夏人**は球際の泥臭さと粘り強いディフェンスで自己犠牲をしてもチームに貢献できる選手。そして国体でも大活躍・191cmの長身で40分フル出場可能な驚異的かつ無尽蔵のスタミナを誇る**エルデネサイハン・エルデネバド**など選手層の厚さとキャリアは藤枝明誠に迫る。他にも3Pシューター・**新屋彰人**、跳躍力と俊敏性に長けてリバウンドや速攻で攻撃の起点となる**高木強臣**、国体選手に選ばれて経験値を積んだ**村上幸斗**、実績のある**前嶋天聖・具志堅理大・新垣颯野**などの戦力を武器に、「堅守」とも呼べる徹底されたプレッシャーディフェンスから足を使ったスピードバスケットでまずは8年ぶりの東海新人出場を狙う。

今大会男子唯一の初出場校は**御殿場**。創立122年の歴史を持つ伝統ある実業高校、生越寛道監督就任以降着実に力をつけて、今大会最終戦では昨年の県新人6位の星陵を破り東部9位で県新人初出場を果たした。優勝チームと並び今年に入って無敗である。前チームから受け継いだチームディフェンスから繰り出すファストブレイクを踏襲、攻撃の軸となる**中野海球空アントニエ**は高校からバスケットを始めたが持ち味の力強いプレーに加えテクニックを身につけてインサイドを守る。185cm・**庄司絢登**はハンドボール部から転部という経歴の持ち主、高さを活かしたリバウンドとシュートブロックでゴール下を支配する。その他にもオールラウンダーでバランスよく何でもこなすマルチプレイヤー・**森山蓮太郎**、中学時代相撲で県を制した強靱な足腰を武器に存在感を示す**横山悠貴**、そして怪我で今大会の出場は難しいが主将としてチームを統率する**芹澤惺瑛**などの戦力で果敢に西部王者・浜松開誠館に挑む。

その他の注目選手として、**櫻庭晴陽・川上大輝・石川琉斗・土屋愛翔・デラナベケンシン**(加藤学園)、**海野伍希・生子達仁・高松天成・塩川蓮太郎・佐野琉哉・勝山海朋**(城南静岡)、**芦澤怜・細川生童南・條蒼生・齋藤天馬・ナカノレイネル**(静岡大成)、**渥美稜平・佐野裕章・野島煌羽・安間孝太郎・原田峻**(浜松聖星)、**村上悠翔・安井誠人・工藤泰心・阪本圭亮**(三島南)などを挙げたい。

右上のブロックは中部新人3連覇を飾った静岡商業と前回準優勝・ウインター県予選で3位決定戦で浜松開誠館に勝って意地を見せた飛龍の力が他チームを圧倒、ブロック決勝での対戦が濃厚である。

静岡商業は中部新人決勝で静岡学園に一時は16点差をつけられる劣勢から終盤一気に抜け出し最終的には14点差をつけての逆転劇、3連覇で地区優勝に華を添えた。地区予選における県立高校の3連覇は近年私の記憶にもなく、今後も極めて実現可能性が低い「快挙」である。中心となるのは県立高校の星・**市川昊**。一言で言えばオールラウンダー、規格外のポテンシャル、そして何よりもこの選手には「華」がある。ドライブが続く展開で相手に対応し始めるとパスに切り替えて味方を後押し、ディナイすれば果敢に3Pを決める、外も用心すればディフェンスをかいくぐっての飛び込みリバウンド。相手にしてみればまさしく「打つ手なし、白旗」である。コート上ではまさしく無双状態、それを象徴するプレーが上述の静岡学園戦、リードを二桁に広げた残り時間30秒、果敢にスティールしてからのワンマン速攻で決めたダンクシュートに会場は揺れんばかりに沸き上がり、興奮のるつぼと化した。大きな期待を込めて評すれば、彼のプレーや一挙手一投足は日本代表・**比江島慎**(B1宇都宮)を彷彿させる。是非決勝リーグでロードプリンスとのマッチアップを見て心を躍らせてみたいと思わせる「逸材」である。他にも、司令塔としてドライブ・3P・ジャンパーなど器用にこなす主将・**望月良依繁**、昨シーズン2月にベルテックス静岡のユース育成特別枠選手としてB3(当時)公式戦にも出場・中部準決勝で3P8本、決勝では4本を決めたスコアラー・**北堀遥大**を筆頭とする1年生の**佐野煌介・仲山柊志・文谷虎斗・齋藤遙人**など若い戦力でコート内縦横無尽に動いてどこからでも得点を生み出せる爆発的攻撃力が強み、練習でのシュ

ート試投数も県内随一と聞く。もちろん「攻撃は最大の防御なり」とは言うが、ファンダメンタルなディフェンスも含めて守備面にも抜かりはない。順調に勝ち上がればブロック決勝で飛龍との対戦することになるが、優勝11回を誇る強豪を打ち破り大会に旋風を起こしたい。

前回大会準優勝の飛龍は、監督交代の過渡期となったウインター県予選で意地を見せ3位を勝ち取った。特に浜松学院戦で見せた粘りと浜松開誠館戦で見せた勢いは次につながる光明となった。大石監督と原コーチが作る新たな「飛龍イズム」がチームに浸透した感がある。先代チームが完全に3年生主体のチームだったため本格的な始動には少し時間がかかるかもしれないが、新キャプテンの司令塔・竹村勇祐が飛龍に脈々と受け継がれるキャプテン魂を継承してドライブ・アシスト・3P でチームに貢献、他にもインサイドの要・怪我から復帰して持ち前のリバウンド確保に汗をかく竹本雅矢、昨年の栃木国体にも出場した小川優乃丞、シューター・守谷珂偉、昨年の東海新人で力強いゴール下のプレーを見せて8得点を記録した上門京太郎、全中・Jr.ウインター出場経験をもつ中盤の松浦光陽などの戦力で伝統ある粘りのディフェンスと愚直にゴールに走り続ける速攻バスケットを武器にブロック決勝で静岡商業を倒し4強、そして8大会連続の東海新人出場を狙う。

その飛龍は静岡商業戦の前に中部3位・静岡城北との戦いが予想される。静岡城北は県総体で敗れた韮山にウインター県予選でリベンジを果たし県ベスト16となった。小澤柚貴・新村俊樹・花村詩穂という3枚のシューターを擁し、彼らが飛龍のお株を奪うアウトサイドの魔術師と化せば飛龍といえども決して油断は出来ない相手、飛龍にとってはブロック決勝前に一勝負ありそうな雰囲気である。

その他の注目選手として、アセソルカメ・太田友翔・島尾颯・伊藤悠真(浜北西)、田村勇人・山本蒼翔・尾形空・本田匠・朝比奈優馬(静岡市立)、芹澤颯馬・濱田寛太郎・野田倭・高田凜乃介(三島北)、石塚泰悟・山本来瑠寿・小倉颯太(浜松湖北)、望月健太・山本空(静岡城北)、山本鳳賀・鈴木海翔・青木勇弥・江間真都・河合真叶・ポリスティコユリ(浜松工業)などを挙げたい。

右下のブロックは、ウインター県予選で浜松開誠館と飛龍を破り7年ぶりにウインターに出場した浜松学院の総合力が群を抜くが、有望な1年生を要所で起用する中部新人準優勝・静岡学園と前回大会5位の浜松商業がブロック決勝進出を賭けて実力伯仲の死闘を繰り広げるであろう。

浜松学院は10年ぶりに巡ってきた「ウインター出場校2枠」のチャンスを生かして全国大会出場、何事にも代えられない貴重な経験をした。鈴木・大倉・衛藤などの主力は引退したが、ウインターの檜舞台を踏んだ下級生が今大会から主力となり凱旋、7大会ぶりの優勝を狙う。ウインターでは強豪・正智深谷に一時は5点差まで迫った粘り強く泥臭いバスケットが信条、その試合でも中盤に見せた素早いパスワークからスペースを作り出して一気に加点して差を詰めているプレーを見ると、戦術の徹底とプレーヤー同士の阿吽の呼吸が感じられた。新チームの中心は国体でも活躍しウインターで堂々のスタメンを飾った1年生の二人。西垣玲央は県協会優秀選手にも選ばれた逸材、国体・神奈川県戦でも静岡県の目指すスピードバスケットで速攻を決めて勝利に貢献、ウインターでも約40分出場し続けて大倉に次ぐ17得点を挙げた。パスで周りを生かす生粋の司令塔であることは県予選でも計り知れたが、正智深谷戦ではディフェンスリバウンドを9本奪い速攻の起点にもなった。末永蒼は昨年度北海道全中3位の実績を持つプレーのクオリティーの高い選手、ディフェンスをかいくぐって放つタフショットが決まりだすと止まらない才能の塊のような選手である。その他にも、昨年の国体でも活躍・鋭利な角度で切れ込むドライブが持ち味の石原弘幸、短時間ながらウインターにも途中出場して貴重な全国の舞台を体感した鈴木陽翔、国体予備登録選手にも選ばれた藤井惺楽、ウインター県予選の優勝決定戦で3Pを決めた戸塚健太郎、

185cmの長身と柔軟性あるフィジカルを生かした攻撃が魅力の**松本将虎**などフレッシュな陣容と全国大会出場という貴重な経験がどのようなケミストリーを見せるのか今から新チームの初陣が楽しみである。

静岡学園は中部新人決勝で静岡商業に惜敗したものの、選手の素材という点で見ると見るべきものが多いチームである。昨年は主力を3年生で固めながらも随所に若い力を投入して経験値を積み上げていた。昨年の東海国体では静岡県を本国体に導く劇的な活躍・玄人好みのディフェンスとスクリーンを見せる**味岡大斗**主将を筆頭に、怪我に悩まされながらも天賦のシュートセンスでスタメン定着を狙う**小永井優磨**、中部決勝でも堂々の先発起用・惚れ惚れするような柔らかい体幹を使ってドライブ・レイアップ・3P など内外・ウイングから多彩に攻撃の突破口を見出す**内山直陽**、腕の伸縮を十分に使ってのシュートが素晴らしい**渡邊昊**、鹿児島国体に出場しパスカットからの速攻で得点を挙げた**大長真士**、監督のスタメン起用に応える**久保蒼真**・**山下敬太**、そしてシックスマンとして有事の出番に備える**山田伊吹**などさらに伸びるマージンが広いチーム、ブロック決勝で浜松学院と戦うためには、強靱なフィジカルから猪突猛進のスピードでゴールに迫る**宮本剛都**と監督の戦術をベースに試合展開やフロアバランス、そして仲間の息づかいを総合的に判断ながらプレーも指示も出来る頭脳明晰プレーヤー・**神谷将太郎**、そして大怪我から見事復活、時間限定出場ながらもキャリアもテクニックも一級品のインサイド・**枝村漱夕**などを擁する西部3位・**浜松商業**との対戦が予想される2回戦を是が非でも突破する必要がある。

その浜松商業と初戦で対戦する**科学技術**は中部7位で13年ぶり2回目の県新人出場を決めた。抜群のキャプテンシーを胸に常に前へボールを回すユーティリティープレーヤー・**牧野圭祐**を筆頭に、昨夏の焼津市選抜モンゴル遠征にも選ばれ、ウランバートルの空に吸い込まれんばかりの3P を放った**増田美勇**・**戸篠海瑛**、低い重心から鋭いドライブや機敏な動きでリバウンドにも絡む**曾根田在**、そして1年生ながら中部の大型センター陣に一步も引けを取らないインサイドワークでチームに貢献した**大石聖悟**が不動のスタメン。強敵相手となるが空中戦だけに頼らずにランゲームかつロースコアに持ち込んで県大会初勝利を目指して欲しい。

その他の注目選手として、**宮崎諒**・**青木海岬**・**高杉理己**・**羽田博理**(日大三島)、**大石真弘**・**白井力兜**・**栗田頼乙**・**筒井大輝**・**千葉勢太**(浜松商業)、**増田圭吾**・**飯田慧斗**・**小川優多**・**竹内銀河**・**望野桂太郎**(星陵)、**水口陽翔**・**周梓俊**・**今田流威**・**井田翔太**・**鈴木仁**・**岩田悠司**(袋井商業)、**平山蒼空**・**稲葉一哲**・**川口将吾**・**萩野陽向**・**平野琥太郎**(東海大静岡翔洋)、**澤野恭助**・**杉村桜生**(科学技術)などを挙げたい。

【女子】

今大会も現在県内大会21連覇、141連勝中、まさに8年近く県内無敵を誇る浜松開誠館の総合力が今年も例年以上に群を抜いている。そのような状況の中でも各地区予選王者と昨年の県大会上位チームが何とか女王に一泡吹かそうと必死に迫いすがる展開が予想される。

左上のブロックは浜松開誠館の独壇場となるであろう。他チームはまず浜松開誠館と戦うところまで勝ち上がりたい、相手を慌てさせたい、そして何か次につながるものを掴みたいと思って戦うことになるだろう。

現在大会6連覇中の**浜松開誠館**はウインターカップ2回戦で連覇を達成した京都精華学園と対戦、敗れはしたものの決勝での岐阜女子を除けば全国王者を一番苦しめたチームと言える。その岐阜女子にも東海総体では初勝利を飾っているだけにウインターのスタメン3人残る今年の布陣は全国トップレベルの戦力と言っても過言ではない。中心となるのが U16アジア選手権で日の丸を背負った静岡県の至宝・後藤音羽。その京都精華学園戦では代わる代わる出場する規格外の留学生相手にオフェンスでは一歩も引かない力強い攻めを見せた。特に第3Qに相手が見せた留学生とU18日本代表の八木が仕掛けたダブルチームで挟み寄る執拗なディフェンスにもシュートの1歩目で身体を十分に入れてシリンダーポジションを制して柔らかな膝を使ってゴールに捻じ込むシーンはさらに高いレベルでの才能を感じさせた。本人はインタビューでも謙遜もあるだろうが常々守備への課題を挙げるがボールマンもマークマンも見逃さない身体を張ったディフェンスは日本代表の名に恥じないレベルにある。全国王者との激闘で得たさらなるハイレベルなテクニックを今大会でも見せて欲しい。主将・**井口姫愛**はウインター2試合共チーム最多得点を記録し合計44得点、特筆されるのはそのうちの 96%にあたる42得点が3P、もはや驚愕のレベルである。京都精華学園戦でも8本を決め、相手選手が苦笑するシーンも見られた。3Pの精度や鋭いドライブはもちろん、大事な場面での勝負強さも天下一品、常に闘志を前面に表しチームの士気を鼓舞する大切な役回りも担う。1年生**前川桃花**もウインター・慶進戦で開始直後に放った3Pに象徴される空中砲も武器ではあるが、基本に忠実かつ一歩先を制するディフェンスが真骨頂、是非ディフェンスに注目して欲しい選手である。他にも、京都精華学園戦で途中出場しグッドパスで3アシストを記録、自らも3P やポストで攻める**八重柏憂奈**、粘り強いディフェンスでチームを下支え、ウインターでも32分のプレイングタイムを与えられて実践経験を積んだ**山本さくら**、177cmの長身を生かしてリバウンドを支配する**小幡美空**、東海リーグでの活躍が印象深い**杉山実子**、ウインターでも出場機会を与えられた**大久保愛姫・大杉光・岡田美紀・坪田真由美・橋本瑠那**、県選抜選手として東海国体にも出場した**持田莉子・織田百々花・山本爽未・鈴木結愛**など有望な戦力を挙げれば枚挙に暇がない。粘り強いディフェンスにチェンジングを交えながら攻撃では人もボールも機能的に動くバスケットで一つ一つ勝利を積み重ね、まずは県制覇そして県勢22年ぶりとなる東海制覇をも射程圏内にとらえる。

その常勝女王に初戦で挑戦するのは14年ぶりの出場となる**富士**。長年人数不足に悩まされていたが、2年生8人・1年生も8人計16人の大所帯となり、時間が限られる中での練習にもバリエーションが出てきた成果と言える。大黒柱の**望月さな**は恵まれた身長と運動能力で幅広いプレーをこなすオールラウンダー。**渡邊香恋・渡邊麻琳**はゲームメイクしながら相手の中心選手を抑えるディフェンスが取り柄。全国に名を馳せる強豪相手に自分たちが信じて打ち込んだバスケットがどこまで通じるか、全力で試して欲しい。

浜松開誠館への挑戦権を賭けて2回戦での対戦が予想される「三島南ー浜松南」も2回戦注目のカードである。

三島南は予選のたびに順位を上げて今回東部3位で大会に臨む。入学当初から類まれなバスケットとテクニックで注目を浴びる**辻村明日香**が怪我から復帰し本調子を見せ始めて快進撃、予選でも市立沼津に敗れた1敗のみ。このチームで特筆されるのは厚い選手層とスピード主体の攻撃、そして辻村の個人技。昨年も展望内で「東部四天王」の一人と謳わせてもらったが、今年も勝亦・河谷(市立沼津)、向井(沼津商業)とともに新・四天王の中心となる逸材、チームの総合力だけでなく彼女のプレーが鉄壁のディフェンスを誇る浜松開誠館にどこまで通用するか、今から楽しみである。

昨年3大大会すべてベスト8、安定した成績を続ける**浜松南**は西部新人で浜松学院に準決勝で惜敗したものの翌日浜松商業に快勝、3位で県新人に臨む。2年連続で県協会優秀選手となった忠内という絶対的エースが抜け、さらに新チームの始動が他の公立高校より遅れたことは事実だが、実戦経験を重ねた選手が多く残り、粘り強いディフェンスとウイングから鋭く切れ込むドライブ主体のバスケットは今年も健在である。3P やドライブを武器に1年時から活躍する新司令塔・**山村梨心**、オールラウンドな攻撃の組み立てが際立つ長身選手・169cm**若林鈴音**、ゴール下の得点源**吉田遥**、大柄とは言えない163cmの身長ではあるが果敢にゴール下へ飛び込んでインサイドに挑み、浜松商業戦ではチーム最多の20得点を挙げて勝利を呼び寄せるなど名前の由来のごとく「想いが来る」プレーが光る**奥水想来**、自身をトップギアに持っていくのが早く、立て続けに入る3P が魅力の国体選手・**新林芽依**など恵まれた戦力を使ってウインター県予選で敗れた浜松開誠館との再戦にたどり着きたい。

このブロックの注目選手として、**望月優那**《2年生》・**小泉美奈子**・**望月優那**《1年生》・**大出柚葉**・**小川心優**(静岡女子)、**佐藤吏璃子**・**丸山真央**・**須山心穂**・**山下美優**(静岡大成)、**鈴木沙綾**・**中島心遥**・**萩原葵**・**五十嵐愛生**・**鈴木楓花**(磐田北)、**高橋倅菜**・**高橋詠美**・**辻玲奈**・**五味優花**・**横山わかば**(浜松日体)、**勝部真菜**・**御手洗寿奈**・**江本瑠奈**・**後藤由奈**・**深瀬柚月**(三島南)、**鷹野瑠美**・**島田光奈**(浜松南)などを挙げたい。

左下のブロックは初めて中部新人を制した東海大静岡翔洋と前回大会4位・県総体では3位を勝ち取り初の東海総体出場・ウインター県予選でも3位に入り今年こそ10年ぶりの東海新人出場を目指す浜松聖星の一騎打ちとなる可能性が高い。

東海大静岡翔洋は県総体ベスト32、ウインター県予選ベスト16と順位を上げて今大会第4シードとして初の東海新人出場を狙う。秋までチームに貢献した3年生の船山・遠藤は引退したが、中部新人決勝を見ると指導者や先輩から教え込まれたことがチーム内に浸透している印象を受けた。チーム全員が足を使って走るバスケットを展開しどこからでも得点を奪えるのが強みである。1年生キャプテン・173cm**稲葉叶**のプレーを初めて見た時、スクリーンへの対応・フロート位置でのステップ・指さしのナンバーコールなどが先輩である船山の影響を色濃く感じた。基本に忠実、プレーを先読みした動き、体勢の低い鍛えられたディフェンス、すでに完成度の高い選手ではあるがさらなる可能性を感じさせた。攻撃ではエルボー位置からワンフェイク入れてのドライブかと思わせておいて切れ込んだ味方にパスを出してアシストを演出、守りではボールマンもマークマンも意識しながら相手に暗黙のプレッシャーを与える。このような貢献度は数字には表れにくい攻守に関わらずオフボール時の動きこそ注目して欲しい選手である。その他にも、飛び込みのリバウンドに活路を見出す**一見陽菜**、カットインとボールキャッチのタイミングが絶妙の**星合汐風**、中部新人決勝で第1Qだけで3P4本を決めて相手の意気も戦意も奪い取った**森**

理桃子、空いたスペースを見逃さず縦に鋭いドライブを展開する青島由來、プレッシャーディフェンスの申し子・スイッチした相手にも素早く寄って突破口を封じる森理彩子、中部決勝で途中出場・第3Qから立て続けにシュートを9本決めた花枝咲和など一人一人の役割を果たしながらアグレッシブに攻めてまずは初の県新人4強を勝ち取りたい。

対する西部新人準優勝・浜松聖星は3年間主力としてチームに貢献した3年生が引退したが、ウインター県予選では下級生を積極的に起用して新陳代謝を図る姿勢が見られた。今年のチームは昨年の大滝・内山のような凶抜けたエースはいないが個々に高い能力を持つ選手が多く、機動力で相手のディフェンスをかき乱し、フリーを作って攻めるバスケットが特色、リーダーシップを持ち合わせ、考えながらバスケットが出来る「心」の部分と高精度の3Pなど「技」を併せ持つ主将・大竹花を中心に、高い1on1能力でペイントエリアに攻め込む高下加奈・中西杏奈、冷静沈着なプレーで安定したシュート力を誇るサリッチ愛奈、県武道館のメインコートで身体を張ったディフェンスを披露した三井亜利華、同じくウインター県予選準々決勝で途中出場して得意のジャンプシュートを放った長谷川万桜などの山椒は小粒だがピリッと辛いメンバーが集まっている。まだ完全なる新チームが指導して2ヶ月余り、ここからタイムシェアをしながら多くの選手に実践経験を与えて全員にオールラウンドなプレーを習得させて徹底させていくであろう。昨年は決勝リーグに進みながらも3位決定戦をインフルエンザの影響で棄権、涙をのんだ。まずはブロック決勝を制して決勝リーグ進出、そして東海新人出場を狙う。

浜松聖星の初戦相手は初出場・桐陽。バスケ強豪校・飛龍と姉妹校で同じ学校法人沼津学園。こちらにも長年深刻な部員不足に悩んでいて出場辞退や合同チームでの出場も経験した。今年度ポテンシャルの高い新生が多く入部、伸び伸び楽しみながらプレーをするのが特徴、平均身長166.2cmは県内トップレベルである。エースは2年生の司令塔・遠藤優奈、小柄ながら相手ディフェンスをかいくぐってのドライブや瞬時に放つ3Pで得点を稼ぎ、献身的なディフェンスも魅力。1年生では高いオフェンス力を武器にインサイドで活躍する芹澤もか、長い手足を生かしたリバウンドとパスセンスを武器に攻守でチームに貢献する河谷唯、3Pシューター進藤亜未唯、そしてチームをまとめる主将の薄井衣緒菜は適切な指示とチームを鼓舞する声援で精神的支柱となるムードメーカー。地区予選で6勝した勢いそのまま県新人へ走り抜ける。

今回の地区予選では、初めて全地区で男女11位決定戦が行われた。今までは県大会出場が10枠しかない場合は11位決定戦を行わない地区もあったが、今回は1試合でも多く選手に試合の機会を与えたい、そして4月に行われる地区総体の第11・12シードを確定させたいという運営側の配慮からと推測する。地区によっては県総体・県新人最終日の11位決定戦が「県大会出場最後の1枠決定戦」として注目を浴びるが、今大会では男女合わせて推薦チーム(地区予選免除)が3チーム生まれたため、西部女子のみが「最後の県切符決定戦」となった。64番目にそれを掴んだのが浜松北。常葉大菊川との一戦、司令塔・河村南美や中盤の永見みずほなどの活躍で4年連続の県切符をつかんだ。球際に必死に食らいつき攻撃の機会を増やして得点を重ねるチーム、全力で県新人に臨むとともに西部総体では一つでも上の順位で県総体を目指して欲しい。

このブロックの注目選手として、水鳥心羽・中嶋夢月・村松奈々・坪井雪羽・山口琴乃香(富士宮東)、山田芽以・増田悠伽・中山志緒梨・杉山花音・落合美雨(静岡商業)、彦坂好胡・飯尾心海・内山夏緒(浜松北)、芝本有紗・西浦李虹・山田彩耶・山崎実琉愛・小山愛加(浜松東)、藤倉華音・田村悠香・大竹里奈・藤倉琴音(加藤学園)、深間菜月・岡部玲那(浜松聖星)などを挙げたい。

右上のブロックは東部新人10連覇を達成した市立沼津と中部新人準優勝の常葉大常葉が決勝リーグ進出を賭けて戦う図式が予想される。「市立沼津ー常葉」と聞いただけでもバスケットファンにとっては垂涎(すいえん)の好カードである。

市立沼津は昨年3大会すべてで準優勝、女王・浜松開誠館に最も肉薄したチームである。東海大会や東海リーグにも出場し、東海地区の強豪と互角に渡り合える実力を備えている。遠藤・一藤木など3年間を支えた主力は引退したが、アンダーカテゴリー時代からキャリアを持つ選手も多く残っていて今年も楽しみな戦力である。中心となるのが**河谷真矢**と**勝亦麻結**。県協会優秀選手・178cm河谷は身体能力が高く、跳躍力と長いウイングスパンを利したリバウンドが特色。リバウンド支配率も高いので周りも安心してタフショットを打ち、チームに相乗効果を生み出す。東部新人決勝でも30得点を超える大活躍で勝利の女神となった。勝亦はスピードを生かしたドライブが持ち味、ディフェンスでは大型選手相手にも身を粉にして献身的なディフェンスが出来るプレイヤーである。パスランや鋭いドライブ、力強いリバウンドで得点につなげて、粘り強いディフェンスで守り切るチームのスタイルは変わらないが、今年は高さもあるのが最大の特徴、河谷以外にも**野田心**・**上原美桜**・**植田亜湖**・**竹ノ内菜優**・**外川あこ**など170cm代の長身選手が揃い、ポストプレーも随所に活用する。特に野田は昨年度のU15県協会優秀選手、夏には国体選手にも選ばれるなど輝かしい勲章を持つ選手、ボールハンドリングが天下一品で上手の手から水が漏れることもない素晴らしいスキルを持つ。同じく県選抜選手の上原も中学時代に野田と同じクラブチームで活躍、息の合ったコンビネーションを見せる。他にもドライブから広めにステップを踏んでのジャンプシュートを得意とする米内心菜、小柄ながら強めにプレスをかける守備が魅力の**梅原萌々伽**、3Pシューター**杉山萌唯**、粘り強いディフェンスの**當房心瑠**、ドライブからのジャンプシュートを得意とする**米内心菜**など選手層は県内屈指の厚さを誇る。東部新人はウインター県予選で圧倒した沼津商業に1点差を守り切る薄氷の勝利であったが、県新人開幕に再度焦点を合わせて調整してくるはず、まずは2年連続の東海新人出場を確実にし、さらに15年ぶりの優勝を目指して欲しい。

常葉大常葉は前回大会5位、続く県総体でも6位に入ったが、ウインター県予選では静岡東に敗れベスト16に終わった。伝統の常葉バスケットを継承する佐野新監督の指導のもと、ステイロースタイルを信条にオールコートマンツーマンでの堅守速攻を展開して市立沼津を倒し3大会ぶりの東海新人出場を狙う。中心となるのは**伊藤亜莉沙**。ステイロースタイルで培った柔軟な下半身を使ってジャンプ、高い位置でボールを捕らえて滞空時間の長いリバウンドが特徴、セカンドチャンスも逃さない。近年目に付いた平面的なバスケットを打ち破り長距離砲も打てるのが中盤の**森輝月**、ディフェンスでは果敢にブロックを試みブレイクの起点ともなっている。また森とともに度胸満点の3Pを放つ**大坂滯**も見逃せない。177cm・**河島唯奈**は攻守に見るべきプレーが多い選手、攻では正面に切れ込むドライブやリバースターンからのシュート、守ではインサイドで相手ビッグマンに脚を入れて初動を抑えるなど冴え渡るプレーに注目、大会最多13回の優勝を経て受け継がれる伝統のバスケットを継承しながらも新しい色を入れて、新生・常葉のスタートを切って欲しい。

このブロックの下田も学校創立16年目で県新人初出場を果たした。統合前の前身校、下田北・下田南時代も出場経験がなく、今回が正真正銘の初陣となる。常にボールマンとマークマンに素早く対応するディフェンスをベースに、ランアンドガンとパス回しでオフェンスを形成するスタイル、さらには動画やICTを活用しての情報収集やデータ分析も積極的に取り入れた最先端バスケットを導入している。リバウンドを絡めた攻守の要は**川端穂積**と**神尾美月**の正副キャプテン、司令塔・**高橋夢花**は151cmと小柄ながら広い視野でゲームメイクを行い、オンボールディフェンスのプレッシャーが取り柄となる。ウイング位置の**森心明**も同じく151cm、ドライブや3Pと得意として守備では積極的なパスカットでターンオーバーを誘

発させて流れを引き寄せる。身長がない分、足を止めないバスケットを心掛けて西部の強豪・浜松商業に挑む。

このブロックの注目選手として、塩崎日向・清水佐和・遠藤陽菜・菅野陽向・伊藤栞奈(清水南)、高橋弥恵・石濱怜・鈴木萌花・伊藤かすみ・山田暖々果(浜松市立)、見原楓七・依田愛巳・モア綺蘭・後藤さつき・金子来音・江川凧(沼津中央)、原田りの・小関若菜・山田千恵・大場優菜・矢野有彩・三浦綾夏(浜松商業)、高橋乃愛・竹内結衣・谷川侑来・鈴木湖遥・平松果歩(浜松湖東)、中野菊花・池田愛央衣・須田理子・室伏理緒(常葉大常葉)などを挙げたい。

右下のブロックは、県総体4位・ウインター県予選3位の実績を誇る西部新人覇者・浜松学院と10年来東部予選無敵の市立沼津を決勝で土俵際徳俵まで追い詰めた東部2位・沼津商業がブロック決勝で相まみえる公算が高い。それを阻止すべく2回戦で両チームと戦う可能性が高いのが、前回3位で2大会連続の東海新人出場を果たした藤枝順心と新チームで挑んだウインター県予選で初のベスト8入りを果たした静岡東の中部勢が追いかける展開となる。

浜松学院はウインター県予選準々決勝で藤枝順心を返り討ちにし、続く準決勝でも浜松開誠館の牙城に迫る戦いで大善戦、3位を勝ち取った。新チームの大黒柱は173cmワネケジ・ジュリエット・杏奈。長身を生かしたインサイドプレーだけでなく、中に切れ込んでのミートシュートやドライブなど多岐に渡る攻撃が持ち味、さらにはフリースローの成功率が高く、低空飛行でサクッとリングに吸い込まれるボールの軌道は特徴的である。シューター・足立珊瑚は攻守の要、3P やドライブに目が行きがちだがミドルシュートも高確率に決め、西部新人決勝では23得点を挙げた。175cm高山璃世はワネケジとともにツインタワーでインサイドを制覇する。175cm篠原美咲・173cm荒井香実・170cm太田綾夢・170cm黒野梨緒など、ワネケジや高山も含めて170cm級の長身選手が多いのもチームの強みである。中盤や外回りに目を移せば攻撃から守りへのトランジションの要となり状況に応じて適切なジャッジが出来るインテリジェンスプレーヤー・相川樹由やディフェンスのスペシャリストとしてチームを幾度となく窮地から救った伊藤帆南、新チームからスタメンに抜擢された田開理世など高さと能力を兼ね備えた完成度の高いチーム、堅守でリズムを組み立てて個々の能力を生かした攻撃を展開するバスケットでまずは2大会ぶりの東海新人出場、そして浜松開誠館を破った平成27年度以来の優勝を目指す。

沼津商業は過去にも地区予選で市立沼津をオーバータイムまで追い込んだこともあったが、今回も1点差を詰め切れず地区初優勝という大魚を逃した。この悔しさをバネに県新人に臨み、初の4強・東海新人出場を狙う。屋台骨としてチームを支えた鈴木は抜けた穴は大きすぎるが、速いトランジションが特徴的なフォワード陣の破壊力は抜群である。庄司奈納は試合中常に声を出しチームを鼓舞、ポジション移動も的確でドライブの突破力もある。司令塔・向井京はパスのバリエーションが多彩、少し引き気味で攻めることで相手もパスなのかドライブなのかまたはディープスリーなのか判断が遅れるシーンが目についた。先述したが私はこの選手の技術を非常に高く評価する。梅原優月は勝負の駆け引きに長ける選手、1on1でもジャブステップやロッカーモーション、フェイクを使いながら巧みに相手を抜いていく技巧派である。稲田楓羽はウインター県予選準々決勝・終盤に放った綺麗な放物線を描きながらリングに吸い込まれた3P が印象的、長距離砲だけでなく接触をもいとわない激しいディフェンスが強み。鈴木の穴を埋めるのは170cm白井碧であろう。ウインター県予選で途中出場ながら聖地・県武道館のコートを踏んだ貴重な経験と鈴木からの尊い教えを生かしてゴール下の砦となって責任を果たして欲しい。シックスマンとしてはハードワークに定評がある白井千夏が控えることも心強い。何度も書いているが沼商と言えどチームワーク、しかしここからさらに上に行くためにはその次の一歩が必要、全員ディフェンスからブ

レイクにつなげて攻守にスピードを重視するバスケットで、まずはブロック決勝を突破することだけを考えてプレーして欲しい。

このブロックの注目選手として、小池紫寿・石田妃菜里・増井弥空・宮住美桃・清水咲希・和田一茉莉(藤枝順心)、梅本理世・佐々優華・河合桜・若山紗羽・三浦羽菜(静岡)、栗田志織・小泉芽生・山本寧々・佐藤蓮乃・小柳夏実・伊藤琉那(静岡東)、平野ひまり・飯田綾夏・石田琴音・窪田陽菜(三島北)、鈴木歩美・中村良蕾・片岡瑞希・木下花翠(島田商業)、廻久実子・小久保美波・杉田佳奈美・石垣葉(浜松湖南)などを挙げたい。